



がん 癌検診で引っかけかりました

産婦人科 部長

佐々木 泰



患者さんが医者に申し出る症状や訴えのうち最も主要なものを主訴と言います。

産婦人科には色々な主訴の人が受診されます。痛いや痒い、性器出血などは分かりやすい主訴です。これらの主訴がわかりやすいのは症状が存在し、それが訴えとなっているからです。これらの患者はその症状に困っており、症状解消のために産婦人科を受診されます。

ところが産婦人科には「困ってはいないけど受診したい人」や「症状はないけど訴えはある人」も一定数受診されます。前者の典型は妊婦さんです。一部の望まない妊娠を除いて、妊婦さんは比較的困りごともなく、むしろ意気揚々と笑顔で産婦人科を受診されます。逆に不妊症の患者は後者でしょうか。痛い・痒いはないけれども妊娠できないという訴えがあります。このような様々な受診患者のうち、今回お話しするのは産婦人科を2次検診で受診される方々についてです。

産婦人科の場合、1次検診は子宮頸部の細胞診が最も一般的で、婦人科検診といえはこの子宮頸部の検査が必ず含まれます。医療機関で受ける施設検診ではこれに加えて内診や子宮体癌の検査を受けることができ、自治体の補助の対象外になりますが、希望により超音波検査も受けることができます。(子宮筋腫や卵巣腫瘍が発見できることがあります。)

また、2次検診で当科を受診される患者さんは、子宮頸癌や子宮体癌を疑われた方から子宮筋腫や卵巣腫瘍を疑われた方まで様々ですが、ここではどの検診でも必ず行われている子宮頸癌の検査で異常を指摘された場合に限ってお話します。

「癌検診で引っかけました」

これが患者さんの受診理由です。痛いわけでも痒いわけでも、出血があるわけでもないのです。つまり主訴はないけど病院を受診した人たちです。

これらの人は大きく2つに分かれるようです。**比較的楽天派** 1次検診の結果をあまり深刻には考えておらず「あゝ、引っかけちゃった。一応受診しておこうかな。」程度の人。中には「この忙しいのに、引っかけなんて…」くらいに考えている人もいるかもしれません。ただ楽天派とはいっても2次検診を受診されたわけですからあまり心配はありません。

不安・心配派 「癌検診で引っかけちゃったんです。」「引っかけたんですけど大丈夫でしょうか。」中には「癌って(通知が)来たんですけど。」と青い顔で受診される方もいます。この不安・心配派の方々は少し誤解されていることが多いようです。1次検診の癌検診は子宮頸部の細胞を採取してその形態を評価する検査です。いわば細胞の顔つきを見る検査です。

そしてその評価は6段階で行われます。善人顔(異常なし)から悪党顔(子宮頸癌)まで顔つきによって6つに分かれており、決して単純に善人と悪党(癌)を二つに区別する検査ではないのです。つまり1次検診で細胞診異常を指摘されたからと言って、必ずしも癌というわけではないのです。

むしろ1次検診で癌と診断されることは極めて稀で、異常と診断されても、そのほとんどは顔つきがちよっと悪いだけの細胞のことが多いのです。(細胞診異常の一番軽度の段階(AS-CUSと記載されます)などは、顔つきどころか顔色が悪いだけ?ともいえます。)

もちろんこれらの顔つきの悪い細胞の中には時間をかけて本物の悪党顔に変わるものもありますが、その多くは一定の段階に留まっているものや周辺の段階を行ったり来たりするもの、あるいは行ったり来たりを繰り返して善人顔に落ち着くものなのです。

大事なことは

中には極少数ながら悪党に転落するものがあるのですが、そうなる前に見つけて(1次検診)、その素性を見極めて(2次検診)、監視の目を光らせる(専門の医療機関での管理)ことなのです。子宮頸癌は検診により癌になる前の段階を捉えられる病気です。癌検診を積極的に受診すること、もし異常を指摘されても過度の不安を抱かずに医療機関を受診することをお勧めします。

※1 1次検診とは…自治体実施する集団検診(パス検診など)や各々の職場の定期検診などが一般的。自治体の補助を受け、医療機関を受診する施設検診という検診もある。

※2 2次検診とは…最初の検診(1次検診)で異常を指摘された方について「実際に病気なのかどうか」「あるいは病気がたとえその程度はどうか」といったことを調べるために専門の医療機関で行う診察。